



初優勝のゴールテープを切る滝尾地区アンカーの松永匡史選手

地区対抗駅伝大会 滝尾地区「初優勝」

3月2日、第35回御船町地区対抗駅伝大会は、御船高校前を発着点とした8区間17.6㎞で行われ、滝尾地区が初の栄冠を勝ち取りました。スポーツセンター玄関前で行われた開会式では、上野地区の渡辺浩二選手が「日頃の練習の成果を十二分に発揮し、最後まで走り抜くことを誓います」と選手宣誓。前回大会より、2区間短くなった大会には、7地区の代表70人のランナーが出場しました。滝尾地区は、レース中盤まで6位と出遅れるも、滝尾地区で出場した5区、川上宏紀選手（水越地区）が区間賞の走りで3位まで順位を上げ、続く6区の上田恭輔選手も区間賞の走りでトップに立ち、7区松永圭司選手、8区松永匡史選手による兄弟リレーで、トップを守りきり、2位七滝地区に1分25秒の差をつけ、初優勝のテープを切りました。

2位の七滝地区は、6区終了時点でトップから2分10秒差の最下位。しかし、7区の坂本知芳選手と8区の山下直樹選手の連続区間賞の走りで2位でゴール。前回大会7位からの順位アップで、七滝地区が躍進賞を受賞しました。



1_6区2人抜きで順位を1位に上げ区間賞を獲得した、滝尾地区・上田恭輔選手 2_タスキをもらい走り出す7区、区間賞の七滝地区・坂本知芳選手 3_選手宣誓を行う、上野地区・渡辺浩二選手 4_声援を背に一気に元気よく走り出す1区小学生男子の選手たち

大会記録 (敬称略)

【総合順位】(優勝地区のみ出場選手掲載)

- 1位・滝尾地区 1時間00分17秒
(財津英彰、佐藤翔、本田美幸、松本英里菜、川上宏紀、上田恭輔、松永圭司、松永匡史)
- 2位・七滝地区 1時間01分42秒
- 3位・小坂地区 1時間01分51秒
- 4位・御船地区 1時間02分05秒
- 5位・上野地区 1時間03分31秒
- 6位・高木地区 1時間04分23秒
- 7位・木倉地区 1時間05分06秒

【躍進賞】 七滝地区

【区間賞】(区間・距離・氏名・地区・タイム)

- 1区(1.4㎞)古谷泰佑(小坂) / 4分27秒
- 2区(2.4㎞)近藤健人(高木) / 8分23秒
- 3区(1.2㎞)西山祥世(御船) / 3分51秒 区間新
- 4区(1.2㎞)西村信也(御船) / 3分49秒 区間新
- 5区(2.6㎞)川上宏紀(滝尾) / 8分22秒
- 6区(2.4㎞)上田恭輔(滝尾) / 8分08秒
- 7区(2.4㎞)坂本知芳(七滝) / 7分43秒
- 8区(4.0㎞)山下直樹(七滝) / 12分20秒

九州中央道開通前記念ウォーキング

3月16日、九州横断自動車道延岡線嘉島ジャンクションから小池高山インターチェンジの1.8㎞区間で、開通前の記念ウォーキング大会が行われました。周辺6市町でつくる建設促進期成会(工藤秀一会長)主催。ウォーキング大会には、約2,000人が参加。益城本線料金所で行われた開会式では、参加者全員でカウントダウンを行いスタート。1.8㎞区間のウォーキングを楽しみました。



国道445号御船バイパス全線開通

3月30日、平成13年度から整備が行われてきた、国道445号御船バイパスの開通記念式典が木倉西往還で行われ、関係者約70人が参加しました。バイパスの総延長は、小坂から辺田見間の2358㍍で、総事業費は約38億円。平成22年3月にシンボルロードから国道443号までの369㍍が開通し、平成23年4月に西往還からシンボルロードまでの473㍍が開通済みでした。今回、小坂から西往還までの1516㍍が開通になり、全線で通行できるようになりました。

地域の人たちと交流

3月26日、高木学童保育うさぎクラブが高山サロンと交流会を行いました。同クラブでは、地域との交流を目的に毎年1回、高木地区のサロンと交流を行っており、今年で4回目になります。

同クラブ内で行われた交流会には、うさぎクラブの子どもたちと高山サロンメンバー31人が参加。風船を使ったジャンケンゲームや、肩たたき遊びをしたあと、参加者全員でぜんざいを食べて交流しました。



設立20周年大会

3月8日、町グラウンドゴルフ協会(川地俊晴会長)設立20周年記念交歓大会が、町民グラウンドで行われ、郡内から約270人が参加しました。開会式では、町協会から参加した約130人を代表して、協会最年少の東学さん(上野・51歳)が力強く選手宣誓を行いました。川地会長は「協会では年8回、町の大会を開催しているが、年々会員数が減ってきているので、これから会員が増えるようがんばって活動していきたい」と話しました。